

檀信徒各位

十夜法要のご案内

聖名 時下晩秋の候、専心聞法の好季節となりました。
今年も収穫の時期を終え天地の恵みを感謝する頃でもあります。
下記のように十夜法要を勤めます。

ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいます
ようご案内申し上げます。 合 掌

平成26年11月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜

記

※期 日 平成26年11月23日（日曜日）勤労感謝の日

※時 間 午後1時より十夜法要御回向（普通回向）

午後2時よりふじゅもんえこう諷誦文回向（特別回向）、法話
※布教師 大西 文生 師（長崎教区 法樹寺）

※ご回向料 普通回向 1 霊 1,000 円以上
特別回向 1 霊 5,000 円以上 ご注意下さい。

初めてお十夜法要を迎えられる霊位、又は特別に志される霊位、
布教師様によるふじゅもんえこう諷誦文回向です。 焼香をしていただきます。
11月18日までに申し込み用紙で申し込みをお願いします。

※お供え米、お供え米料 随意ご志納下さい。

毎日の本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

銀行振込 ゆうちょ銀行 一七九店 当座 口座番号 0016114

法然上人絵伝

第六卷第三段

東山の吉水に庵室を結んだ法然上人に善男善女集う

承安五（一一七五）年、専修念仏に帰した法然上人は、三十年近く住み慣れた比叡山を下り、東山の吉水のあたりに庵室を求め、今の知恩院の御影堂の東、中の房に住んだ。

鎌倉仏教の最大の特徴は女人往生である。それまで女性は障りがあるという理由から往生ができなかった。

それが「お念仏をとなえるだけで極楽に往生ができる」というので、われもわれもと吉水に住む法然上人をたずねる人々が増えていった。

この絵は、日増しに東山の草庵に集まる信者の姿を描いているものであるが、一人一人を実に丁寧に写し出している。鎌倉時代の風俗画として貴重なものである。そればかりでなく、法然上人の説法を聞き、驚いた様子や、安心した姿、あるいは話にのめりこんでゆく姿が生々しく描かれている。

漆塗りの上に金銅の飾り金具を打った机の上に両手で経典をおさえ、おだやかな様子で話す法然上人の姿は一見やさしそうに見えるが、下座の畳の上で聞いている三人の僧の姿は真剣そのもので、一言も聞きもらすまいと緊張している。

誰からも聞いたことのない話を聞かされてびっくりし、阿弥陀さまから直接聞いたような感激にひたっているのであらう。



法然上人絵伝 第六卷 第三段

院号授与式

松月院 高田 騰 殿

約 7 年間の修養を経て、この度めでたく院号を受けられました。

これからも念仏精進されますよう祈念いたします。 至心合掌



釈尊の生涯

最後の言葉

体調を崩された釈尊の元にクシナガラに住むスパドラがやってきて、「わたしの疑いをぜひ道の人ゴータマに解いてほしい。早く会わせて下さい。」と頼みこんだ。
 アーナンダは師がおもい病の床にあるから遠慮するようにと申しわたした。しかしスパドラは聞き入れずに三度も頼み込んだ。アーナンダはそのたびごとに拒絶した。このやりとりを聞かれた釈尊は「スパドラの話を聞いてあげよう。早くはいつてくるがよい」といって、問答をかさねられ、ついにスパドラを最後の弟子にされたのである。
 そして釈尊はその日の夜おそく、泣き悲しむ弟子たちに「諸行は無常である。怠ることなく、努め励まねばならぬ。これぞわたしの最後のこゝとばである」と遺戒し、八十歳の高齢をもってやすらかになくなったのである。

シリーズ お葬式

その四

お位牌について

古いお位牌をどうしたらいいか、お位牌についてのことは意外とわからないことがあります。白木のお位牌を黒塗りのお位牌に変える時期だとか。ここではこのお位牌についてお話ししたいと思います。

仏壇のなかの主役が本尊さま、そして準主役がお位牌です。

そうです、お位牌はとても大切なものです。

仏壇にある黒塗りのお位牌は、枕経もしくは通夜の時に菩提寺の住職からつけていただいた戒名を書いた白木のお位牌にとって代わったものです。

そしてこのお位牌は黒塗りになる時に開眼の供養をしていただき、仏壇の中に納められます。

白木のお位牌ですが、枕経もしくは通夜の際、授かった戒名が白木お位牌に書かれます。

納骨とともに開眼された黒塗りのお位牌に代わるまで、故人のお骨とともに残されます。

書く本数やその書き方には地方や地域によってことなりますが、一般的なこととして、真ん中に戒名が、そしてその向かって右側に亡くなった日を、向かって左側には俗名と亡くなった時の年齢を書くことが多いようです。

この白木のお位牌は納骨とともに黒塗りのお位牌に代えま

す。その際黒塗りのお位牌は、住職に開眼の供養をしていただき仏壇の中に納め、白木のお位牌はその後菩提寺に持参して淨梵(じょうぼん)してもらいます。

出典 浄土宗ホームページ

無量寺では戒名の右側に命日の年を、左側に月日を書きます。



香味けんちん汁



材料 (4 人分)		作り方 豆腐は手で軽くほぐし、水を切っておく。大根、蓮根、にんじんは薄くいちょう切り、ごぼうは縦半分から斜め切り、こんにやくは5ミリ幅の短冊切りにする。鍋にごま油、にんにく、しょうがを熱し、香りが立ったら1の野菜とこんにやくを入れてよく炒める。だし汁を入れ、煮立ったらふたをして中火で5分煮る。その後、味噌と豆腐を加え、さらに一煮立ちさせたら、最後に小口切りにした長ねぎを添える。
大根、蓮根	各 100g	
にんじん	50g	
ごぼう	45g	
こんにやく	100g	
木綿豆腐	200g	
長ねぎ (青い部分)	少々	
ごま油	大さじ 1	
にんにく (みじん切り)	1-2 片分	
しょうが (すりおろし)	1-2 片分	
だし汁	400ml	
あわせ味噌	50g	



お経を学ぼう

秋彼岸法要の住職法話より

しせいげ
四誓偈

我がんちようせいがん
我 建 超 世 願

ひつしむじようどう
必 至 無 上 道

しがんふまんぞく
斯 願 不 満 足

せいふじようしようがく
誓 不 成 正 覺

がおむりようごう
我 於 無 量 劫

ふいだいせいしゅ
不 為 大 施 主

ふさいしよびんぐ
普 濟 諸 貧 苦

せいふじようしようがく
誓 不 成 正 覺

がしじようぶつどう
我 至 成 佛 道

みようしようちようじつぽう
名 聲 超 十 方

くきようみしようもん
究 竟 靡 所 聞

せいふじようしようがく
誓 不 成 正 覺

〈訳〉

私（法蔵菩薩）は、世にこえずぐれた四十八の願を建てました。かならずこの上ない覚りの世界に至りましょう。この願いが成就しないというならば、誓って覚りを得ることはありません。

私はこの先いつまででも、大いに恵み施す主となって、貧しく苦に苛まれている多くの者を、一人のこらず救えないというならば、誓って覚りを得ることはありません。

私が覚りの世界を完成したならば、私の名前が十方の世界にまで響きわたることでしょう。すみずみまで響きわたらないというならば、誓って覚りを得ることはありません。

上のお経は、檀信徒の皆さんと一緒にあげる（日常勤行式）の中の四誓偈の一部です。

無量寿経のなかの最も大切な箇所を抜粋しています。

訳を読んでいただければ、お経の意味も理解していただけるのではないかと思います。

カーラビンカコンサートの御案内



期 日 平成26年12月4日（木）

時 間 第1部 午後5時開演
第2部 午後6時30分

会 場 ホテルマリターレ創世 東櫛原町900
電話番号 0942-35-3511

会 費 第1部のみ参加の方 無料
第2部 5000円（食事、飲み物代込み）

お問い合わせは無量寺まで